



元気、
美味しい、
暮らしやすい
ENERGY OF PEACE
ひろしま

資料提供	
令和7年1月22日	
課名	販売・連携推進課
担当	諫山
内線	3581
直通電話	082-513-3582

県内初！

水田の水を抜くだけで生産者の所得向上／環境負荷も低減 水稲栽培における中干し期間延長で、 県内初めての J-クレジット 認証者(予定)が知事を表敬訪問

広島県では、令和4年度から、農水産事業者と多様な業種の企業が連携し、新たな「食」のビジネスを創発して農水産事業者の「稼ぐ力」を高めることを目的とした「Hiroshima FOOD BATON」(食のイノベーション推進事業)を進めています。

令和5年度の採択者である株式会社 Rev0(レボ)は、水稲栽培における中干し期間の延長で J-クレジット 創出に挑戦し、第63回 J-クレジット 制度認証委員会において J-クレジット の認証を受ける予定です。この報告のため株式会社 Rev0 が湯崎知事を表敬訪問します。

水稲栽培における中干し期間の延長での J-クレジット 認証は、広島県内では初めてであり、生産者自身が認証を取得することは、全国的にも稀有なものとなります。

この取組は、水稲生産者の新たな所得の確保や環境負荷低減につながるものですので、是非取材をお願いします。

湯崎知事訪問の概要

- 1 日時 令和7年1月30日(木)9:30～9:50
- 2 場所 県庁北館2階第1会議室
- 3 出席者
広島県知事 湯崎 英彦 (ゆざき ひでひこ)
(株)Rev0 代表取締役 本多 正樹 (ほんだ まさき)氏
(株)Rev0 フィールドアドバイザー 出張 一樹 (ではり かずき)氏
- 4 内容 水稲栽培における中干し期間の延長での J-クレジット 認証の取組報告懇談、写真撮影及び質疑応答等

訪問者について

本多 正樹 氏

株式会社 Rev0 代表取締役/株式会社ハラダファーム本多 代表取締役



広島県安芸高田市で約50haの水稲栽培を中心に農業法人を経営。

R4年度から「ひろしま seed box」実証農場として連携する等、これまでの農業の枠に囚われない新しい事業モデルの創出に携わっている。

こうした中、農業経営体として主体的に新たな価値の創出事業を興すべく、2023年4月に株式会社 Rev0 というスタートアップを創業した。

出張 一樹 氏

株式会社 rev0 フィールドアドバイザー/出張農園 代表



広島県安芸高田市で水稻 10ha を耕作している農家。

前職では、(現)JA ひろしまの職員の課長職として水稻の営農指導を担当していた。

同じ農業者として農家の収入増につなげ、地球環境の保全活動につながればとの思いで、株式会社 Rev0 に参画し、フィールドアドバイザーとして、中干延長の技術サポートを担当している。

J-クレジット制度及び水稻栽培の中干し期間延長について

J-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入等による CO₂ 等の排出削減量や、適切な森林管理による CO₂ 等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。このクレジットを企業や個人が購入することで、自らの CO₂ 等の排出量をオフセット(相殺)することができます。

中干しは、水稻栽培におけるプロセスの一つであり、水稻の生育期間中に、出穂前に一度水田の水を抜いて田面を乾かすことで、過剰な分げつ(根元付近からの枝分かれ)を防止し、成長を制御する作業です。この作業を7日間延長することで、水と有機物を活動条件とするメタン生成菌の活動を抑さえ、二酸化炭素の約 28 倍の温室効果をもたらすメタンガス発生を減少させることができます。その削減分が J-クレジットとして認証、販売されます。

「Hiroshima FOOD BATON」(食のイノベーション推進事業)とは

農水産事業者と多様な業種の企業の皆様が連携し、広島県の誇る新商品やサービスの提供など、新たなビジネスの創発を進めることにより、農水産事業者の稼ぐ力を高める取組。

専用サイト:

<https://www.hiroshima-ouen.com/hiroshima-foodbaton/>



<取材連絡先>

- 株式会社 Rev0 に関すること
株式会社 Rev0 代表取締役 本多 正樹【masaki.honda@rev0.co.jp】
- Hiroshima FOOD BATON (食のイノベーション推進事業)に関すること
広島県農林水産局販売・連携推進課 課長 諫山 俊之【電話: 082-513-3582】